

【緊急事態時における安否確認のための連絡手段】

～ 災害に備え知っておくべき、用意しておくべきこと

当地において地震や火山の噴火、津波等の大規模自然災害や大規模テロ事件、航空機事故等の緊急事態が発生した場合、事態の規模や態様によっては、普段使用している通信手段が使用不可能となったり、その機能が大幅に制限されてしまうことがあります。これは、通信手段を提供する施設・機器そのものの損害や、一斉に多くの人々が他と連絡を取ろうことにより起こります。このような場合に、当地や日本に住むご家族等にご自分（及びご家族）の安否を知らせ、又は確認する場合の有効な手段として、以下を知っておくとともに、事前にご家族の方としっかり情報を共有しておくことが極めて重要です。

- 1 混線等により電話（携帯・固定）の使用が不可能でも、インターネットは使用可能な場合があります。この場合はe-mailや「Facebook」「Twitter」等のSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）による安否連絡・確認を試みる。

例：ハイチ地震において壊滅的な被害を受けた地域で、電話は使用不可能であったがインターネット回線が活用可能であったため、「Facebook」を利用して情報発信を行った。

- 2 携帯電話の通話が不可能であっても、携帯電話のテキストメッセージは有効に機能する場合がありますので、テキストメッセージ（写真であっても1メガ以内はOK）による連絡を試みる。

例：職場にいるときに大規模な地震が起こった。自宅にいる妻へ携帯電話及び固定電話を利用して連絡を取ろうとしてもつながらなかったが、携帯電話のテキストメッセージで相互に連絡を取ることができた。



- 3 混線により国内地域通話（ローカル・コール）がつかない場合であっても、長距離通話（ロング・ディスタンス・コール、国際通話は不可。）は回線が確保されておりつながる場合が多い。そこで前もって居住地外（最低でも100マイル以上離れた地域、できれば東海岸が望ましい。）に居住する友人、知人、勤務先の米国内他の支店等の連絡先について、緊急時の「コンタクト・ポイント」として当地家族、日本の家族等との間で事前に共有しておき、緊急事態が発生した場合に、このコンタクト・ポイントを介して連絡を取り合う。



例：ワシントン州で地震が起こった際、携帯電話・固定電話ともにつながらなかったが、事前に決めて家族で共有していたシカゴの友人宅に電話をかけたところつながり、友人を介して家族の無事を確認するとともに、自身の無事も伝言として残すことができた。

- 4 家族の無事が確認できたら、緊急時の911コールを除いて、他に安否確認を必要とする人へ回線を確保するため、可能な限り電話の使用は控える。